

社会福祉法において各保育所では、保育の質の確保・向上に実効性のある自己評価に取り組み、利用者様へ情報の提供が義務づけられています。そこで岩屋保育園でも『平成30年度施行保育所保育指針のチェックを含む保育所保育のチェックリスト100』をもとに自己評価を実施し、情報開示をさせていただきます。

令和3年度自己評価に関する情報開示

保育士は、保育所の保育チェックリスト100を（＊0歳児担当は、Q1～Q53 ＊1・2歳児担当は、Q1～Q45・Q54～Q62 ＊3～5歳児担当は、Q1～Q45・Q63～Q73）使用し評価を行い、給食室職員は、食育・食事の提供等に関するチェックリスト100を使用し評価を行った。尚、1回目（4月～9月）・2回目（10月～3月）と年2回行い、レーダーにより1回目と2回目の評価の結果を表している。また、個人の集計結果と施設全体での集計結果を出し、施設全体での結果を下記に記載。後期では年間自己チェック評価表の記述も行い、こちらも下記に記載している。

○食育・食事の提供等に関するチェックリスト100

食育・食事の提供等に関するチェックリスト100

岩屋保育園 自己評価集計結果（施設）

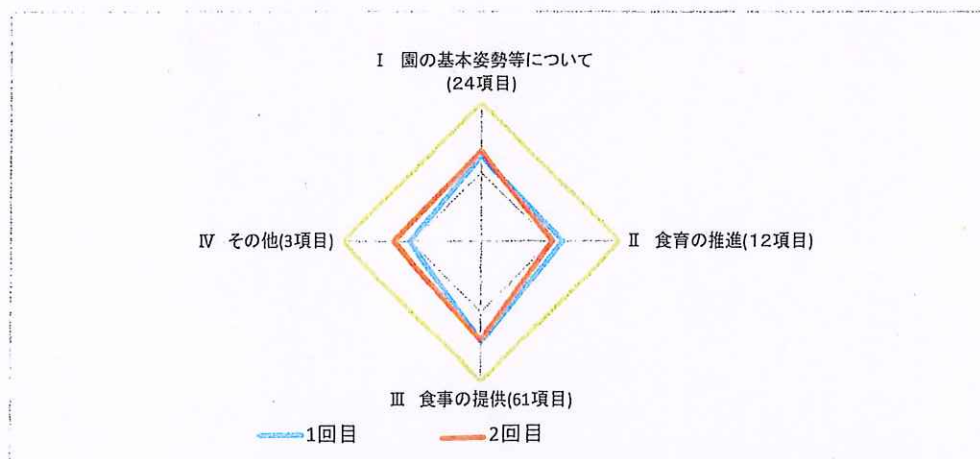
<評価方法>

理解し実施している…◎ 3点 一部実施している…○ 2点 不安がある…▲ 1点 実施していない…× 0点

集計結果

	回答人数 入力してください	3 人							
		1回目				2回目			
評価		◎	○	▲	×	◎	○	▲	×
I 園の基本姿勢等について(24項目)		20	29	16	7	25	29	8	10
II 食育の推進(12項目)		5	18	12	1	5	14	12	5
III 食事の提供(61項目)		72	72	33	6	83	54	33	13
IV その他(3項目)		4	0	2	3	4	2	1	2

レーダー



○衛生管理チェックリスト

衛生管理チェックリスト50

岩屋保育園

自己評価集計結果

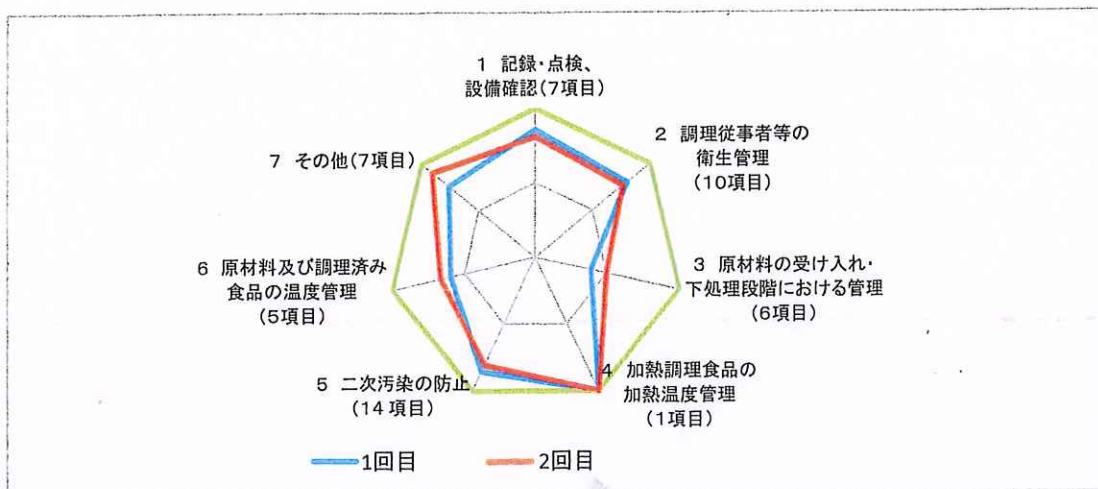
<評価方法>

理解し実施している…◎ 3点 一部実施している…○ 2点 不安がある…▲ 1点 実施していない…× 0点

集計結果

コピーポイント	氏 名	山本・太田・生田				給食室			
チェックした日付		2021/10/1							
評 価		◎	○	▲	×	◎	○	▲	×
1	記録・点検、設備確認(7項目)	6	0	0	1	5	1	0	1
2	調理従事者等の衛生管理(10項目)	8	0	0	2	6	2	1	1
3	原材料の受け入れ・下処理段階における管理(6項目)	1	2	0	3	2	0	3	1
4	加熱調理食品の加熱温度管理(1項目)	1	0	0	0	1	0	0	0
5	二次汚染の防止(14項目)	8	6	0	0	7	6	1	0
6	原材料及び調理済み食品の温度管理(5項目)	2	1	1	1	1	3	1	0
7	その他(7項目)	4	2	0	1	5	2	0	0

レーダー



○年間自己チェック表から見えてくるもの

* 個人

〈今年度の評価点〉

- ・食材の入れ忘れやアレルギー食の除去等間違えることなくできた
- ・コロナ禍であったが、できる限りでの対策を行い、子どもたちと食育の一環であるクッキングを一緒に行う事が出来た

〈今年度の課題点〉

- ・食事の提供時間に間に合わないことがあった
- ・クッキングの回数がクラスにより差ができてしまった

〈次年度の改善点〉

- ・食事の提供時間に間に合わせるよう時間配分を行い調理する
- ・クッキング内容の見直し

〈今年度の評価を踏まえ、次年度「指導計画」へ盛り込む内容〉

- ・離乳食・アレルギー食・普通食と、子どもたちに合わせた食事の提供を、間違いなく確実にこなっていく
- ・まだまだ続くコロナの中でも、子どもたちが楽しめるクッキングを保育士と一緒に計画していく

○保育所の保育のチェックリスト100

保育所の保育のチェックリスト100

岩屋保育園 自己評価集計結果（施設）

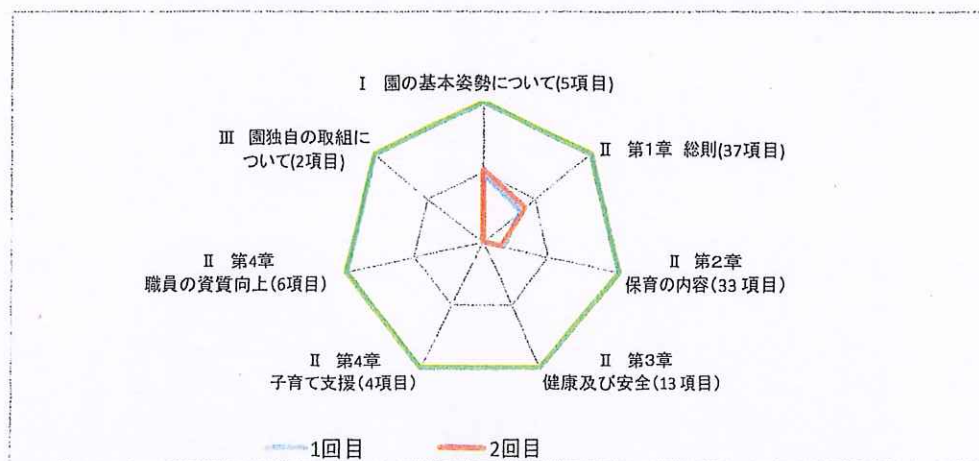
＜評価方法＞

十分理解できている(十分にできている)…◎3点 理解している(できている)…○2点 ふつう…▲1点 努力が必要…×0点

集計結果

評価	回答人数 入力してください		11 人							
	1回目				2回目					
	◎	○	▲	×	◎	○	▲	×		
I 園の基本姿勢について(5項目)	2	25	25	3	4	23	26	2		
II 第1章 総則(37項目)	0	112	212	83	0	145	198	64		
第2章 保育の内容(33項目)	0	50	63	250	0	42	65	256		
第3章 健康及び安全(13項目)	0	0	0	143	0	0	0	143		
第4章 子育て支援(4項目)	0	0	0	44	0	0	0	44		
第5章 職員の資質向上(6項目)	0	0	0	66	0	0	0	66		
III 園独自の取組について(2項目)	0	0	0	22	0	0	0	22		

レーダー



○年間自己チェック表から見えてくるもの

以上児より

*個人

〈今年度の評価点〉

- ・子どもたちとのかかわりを多く持ち、信頼関係を築けた
- ・言葉数が少ない子どもに対し、積極的に声をかけるようにすることで良い関係が築けた
- ・以上児リーダーとして、全体を見て動くように意識し保育を行った
- ・コロナ対策を行い、日々の保育に努めた

〈今年度の課題点〉

- ・書類の提出をきちんと行う
- ・保育者や友だちに対し、うまく気持ちを伝えられない子もいるので、個々との関わりをもっと増やし安心して過ごせるようにする
- ・他のクラスの保育者との連絡事項の伝え合いが不十分な所があった
- ・子ども一人一人に合った関わりを考え、丁寧な保育を行う

〈次年度の改善点〉

- ・何でも早めに取り組むようにする
- ・遊びを通して子どもたちに様々なことが伝えられるような保育を行う
- ・職員との関わりをもっと持つ
- ・子どもたちそれぞれに応じて援助する

*クラス運営

〈今年度の評価点〉

- ・一人一人に合った声かけを行うことで、クラス全体の落ち着きがみられた
- ・友だちに興味を持ち、友だちの気持ちを理解したり、思いやりがみられるようになった
- ・クラスをまとめつつ、子ども一人一人が安心して過ごせることを考え、保育を行った
- ・複数担任ということもあり、子どもへの対応を同じように行うことで、子どもたちが戸惑わないように努めた

・以上児クラスで話し合い、できる限りのコロナ対策を（行事への取り組み、トイレなど共同使用の場所の利用について、登園時またその他の手洗い・消毒など）行いながら保育をすすめられた

〈今年度の課題点〉

- ・話を聞けない子、落ち着きがない子等への対応が不十分であった
- ・個人差がみられ、活動の内容によっては、できる子またできない子と分かれてしまった

ことを反省し課題とする

・行事（運動会・お遊戯会）の際、練習時間確保の為に遊ぶ時間が少なくなったことを反省する。時間配分をきちんと行う

〈次年度の改善点〉

- ・子どもたちへ伝える際は、保育者が言葉を選び、わかりやすく伝えるようにする
- ・クラス全体でできることを増やしていく
- ・職員間のコミュニケーションや情報共有を密にする
- ・一人一人の子どもの好きなことをのばせる保育を行っていく

未満児より

＊個人

〈今年度の評価点〉

- ・子どもの特性を理解しての保育ができた
- ・一人一人の成長に合わせて声かけや援助をすることができた
- ・一人一人とたくさんふれあうことができた
- ・家庭との連絡を密に行うよう努めた
- ・園児の健康状態の把握に努めた

〈今年度の課題点〉

- ・子ども一人一人に合った援助が十分できてなかった
- ・ゆとりを持った対応が足りなかった
- ・子どもへの適切な声かけが不十分であった
- ・保育士また、他職員との情報交換が十分ではなかった

〈次年度の改善点〉

- ・一人一人に寄り添った保育を行う
- ・マスクごしにはなるが、常に笑顔で子どもたちに接する
- ・園児の病気の早期発見、怪我防止に努める
- ・担当制保育についてより理解し、保育に努める
- ・子ども一人一人が安心して過ごせる環境を作っていく

＊クラス運営

〈今年度の評価点〉

- ・同じクラスの担任同士、子どもたちの様子を伝え合いまた考え合いながら保育ができた
- ・高月齢・低月齢で分けることで子どもたちに無理なく活動ができた
- ・絵本好きな子が多いクラスだったこともあり、子どもたちが多くの絵本と出会えるように読み聞かせを多く取り入れた

〈今年度の課題点〉

- ・子どもがじっくり遊びこめる環境作りが不十分であった
- ・子ども同士のトラブル（かみつきのや引っかき）がみられ、職員間の見守りが不十分であったことを反省する
- ・自分の担当の子とのかかわりはできていたが、その他の子とのかかわりが不十分であった

〈次年度の改善点〉

- ・子ども一人一人が安心できる環境を作っていく
- ・保育士、給食担当、看護師など職員間で連携を十分にとり、より良い保育をおこなっていく
- ・職員間で保育に対する共通理解をきちんと行う

○園全体の自己評価

〈今年度の評価・課題・改善点〉

・コロナ禍という中での日々の保育であったが、対策を行いつつ、子どもたち一人一人が安心して、また保育者や友だちと一緒に楽しめる保育を行う事が出来ていたことを評価点とする。しかし、自己チェック表に書かれた課題点をみると、一人一人に合った適切な援助が不十分であったという記載もある。まだまだ保育者主体の保育となっていることもあるので、子どもの主体性を尊重できる保育を目指していきたい。保育所保育指針にある、保育の考え方や理念、方針を再確認し、保育の質の向上に努めていきたい。

○まとめ

- ・今年度の自己評価をもとに、次年度も園全体で子どもたちについて考え、より良い保育を行っていききたい。